

法人企業景気予測調査

(平成26年4～6月調査)

BSIの計算法

(Business Survey Index)

例「景況判断」の場合

前期と比べて

「上昇」と回答した企業の構成比…40.0%

「不変」と回答した企業の構成比…25.0%

「下降」と回答した企業の構成比…30.0%

「不明」と回答した企業の構成比…5.0%

BSI=(「上昇」と回答した企業の構成比 40.0%)
- (「下降」と回答した企業の構成比 30.0%)
=10.0%ポイント

調査の概要

【調査の目的】

本調査は、企業活動の現状と先行き見通しに対する経営者の判断を調査し、経済・財政政策運営の基礎資料を得ることを目的として、統計法に基づく一般統計調査として年4回(2、5、8、11月)実施。

【調査の時点】

平成26年5月15日

【調査対象期間】

判断項目：26年4～6月期及び6月末見込み
26年7～9月期及び9月末見通し
26年10～12月期及び12月末見通し
計数項目：26年度上期実績見込み
26年度下期見通し

【調査対象企業の範囲】

沖縄県内に所在する資本金、出資金又は基金(以下、資本金という)1千万円以上(電気・ガス・水道及び金融業、保険業は1億円以上)の法人

調査対象企業数及び回収状況は次のとおりである。

- ・対象企業数：130社
- ・回答企業数：121社
- ・回収率：93.1%

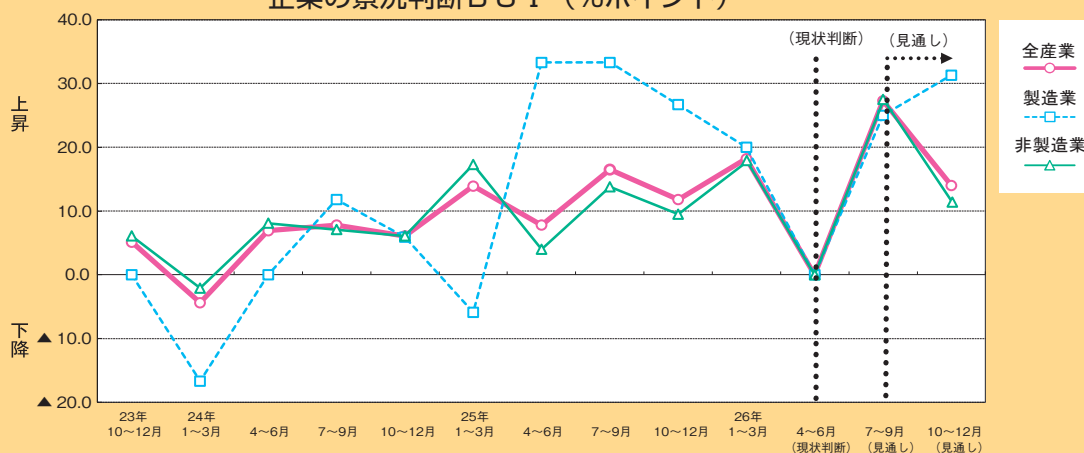
(単位：社)

	対象企業数	回答企業数	回収率(%)
全産業	130	121	93.1
製造業	17	16	94.1
非製造業	113	105	92.9
建設業	21	21	100.0
情報通信業	10	10	100.0
運輸業、郵便業	6	6	100.0
卸売業、小売業	18	17	94.4
サービス業	22	19	86.4
大企業(資本金10億円以上)	21	20	95.2
中堅企業(1億円以上10億円未満)	39	36	92.3
中小企業(1千万円以上1億円未満)	70	65	92.9

景況判断

現状判断は「上昇」と「下降」の均衡、先行きは「上昇」超で推移する見通し

企業の景況判断BSI (%ポイント)



企業の景況判断BSI (原数値)

(前期比「上昇」-「下降」社数構成比)

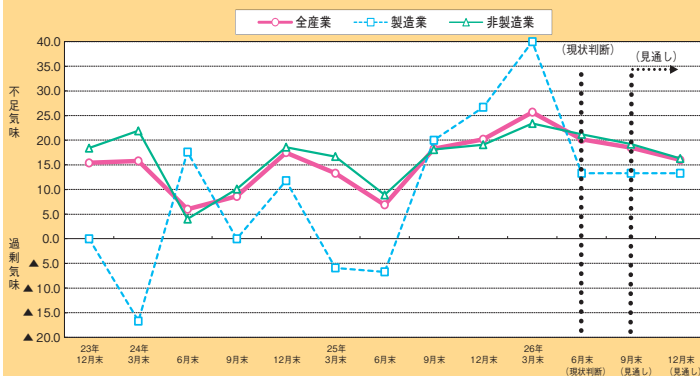
(単位：%ポイント)

	26年1～3月 前回調査	26年4～6月 現状判断	26年7～9月 見通し	26年10～12月 見通し
全産業	18.2	(▲13.6) 0.0	(12.7) 27.3	14.0
製造業	20.0	(6.7) 0.0	(26.7) 25.0	31.3
食料品製造業	▲14.3	(0.0) 0.0	(14.3) 18.2	18.2
非製造業	17.9	(▲16.8) 0.0	(10.5) 27.6	11.4
建設業	33.3	(▲27.8) 14.3	(0.0) 14.3	9.5
情報通信業	27.3	(0.0) ▲10.0	(18.2) 30.0	30.0
運輸業、郵便業	14.3	(▲28.6) 0.0	(▲28.6) 50.0	50.0
卸売業、小売業	5.3	(▲26.3) ▲17.6	(26.3) 52.9	23.5
サービス業	21.4	(0.0) 0.0	(7.1) 42.1	0.0
規模別				
大企業	5.0	(5.0) 20.0	(15.0) 10.0	0.0
中堅企業	33.3	(▲36.7) ▲25.0	(13.3) 27.8	2.8
中小企業	15.0	(▲8.3) 7.7	(11.7) 32.3	24.6

(注) () 書きは前回調査(26年1～3月期)時の見通し

雇用

現状判断は「不足気味」超、先行きも「不足気味」超の見通し



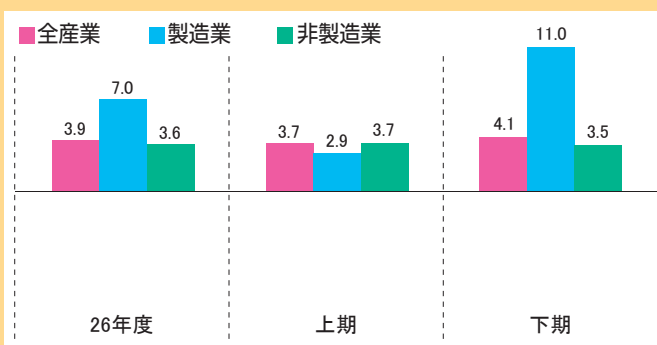
従業員数判断 B S I (原数値)		(期末判断「不足気味」→「過剰気味」社数構成比)		(単位: %ポイント)	
	26年3月末 前回調査	26年6月末 現状判断	26年9月末 見通し	26年12月末 見通し	
全産業	25.7	(6.4)	20.2	(7.3)	18.5
製造業	40.0	(0.0)	13.3	(6.7)	13.3
非製造業	23.4	(7.4)	21.2	(7.4)	19.2
建設業	55.6	(22.2)	28.6	(16.7)	33.3
情報通信業	27.3	(9.1)	30.0	(18.2)	30.0
運輸業、郵便業	0.0	(0.0)	33.3	(0.0)	16.7
卸売業、小売業	21.1	(5.3)	11.8	(5.3)	11.8
サービス業	23.1	(7.7)	27.8	(7.7)	27.8
大企業	10.0	(5.0)	5.0	(5.0)	5.0
中堅企業	30.0	(16.7)	20.0	(16.7)	17.1
中小企業	28.8	(1.7)	25.0	(3.4)	23.4

(注) () 書きは前回調査 (26年1~3月期) 時の見通し

売上高

26年度は増収見通し

(注:石油・石炭・電気・ガス・水道、金融、保険を除く)



		26年度		(前年同期比増減率: %)	
				上期	下期
全産業	(2.9)	3.9		3.7	4.1
製造業	(8.7)	7.0		2.9	11.0
非製造業	(2.5)	3.6		3.7	3.5
建設業	(▲2.7)	4.0		5.6	3.0
情報通信業	(2.3)	1.7		3.3	0.2
運輸業、郵便業	(1.8)	0.7	▲2.6		4.4
卸売業、小売業	(4.2)	4.2		4.5	4.0
サービス業	(4.5)	4.6		3.7	5.6

(参考) 全規模・全業種 (金融業、保険業は調査対象外)

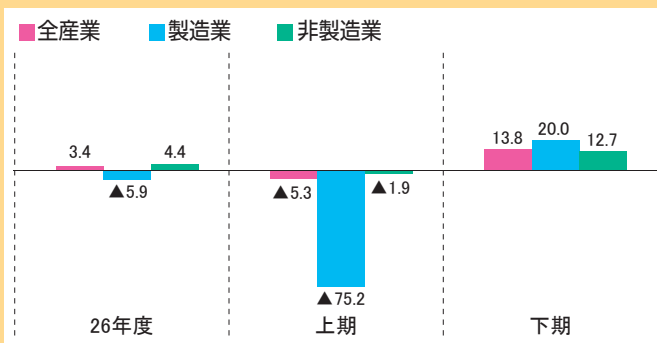
		26年度		(前年同期比増減率: %)	
				上期	下期
全産業	(4.6)	5.5		5.3	5.6
製造業	-	-		-	-
非製造業	-	-		-	-

(注) 1. () 書きは前回調査 (26年1~3月期) 結果 2. - はデータ秘匿の観点から非公表

経常利益

26年度は増益見通し

(注:石油・石炭・電気・ガス・水道、金融、保険を除く)



		26年度		(前年同期比増減率: %)	
				上期	下期
全産業	(8.7)	3.4	▲5.3		13.8
製造業	(74.5)	▲5.9	▲75.2		20.0
非製造業	(4.8)	4.4	▲1.9		12.7
建設業	(▲31.7)	▲27.0	▲68.7		20.4
情報通信業	(8.1)	15.3		12.9	18.0
運輸業、郵便業	(0.0)	▲0.6	▲21.5		420.7
卸売業、小売業	(6.2)	1.5		4.1	▲0.9
サービス業	(10.8)	28.4		1.1	黒字転化

(参考) 全規模・全業種

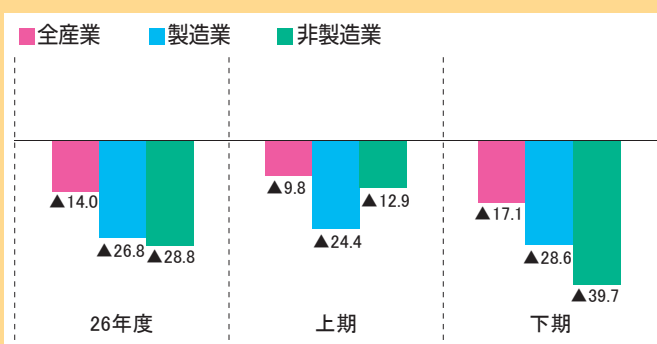
		26年度		(前年同期比増減率: %)	
				上期	下期
全産業	(29.8)	2.5	▲7.0		18.9
製造業	-	-		-	-
非製造業	-	-		-	-

(注) 1. () 書きは前回調査 (26年1~3月期) 結果 2. - はデータ秘匿の観点から非公表

設備投資

26年度は減少見通し

(注:ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く)



		26年度		(前年同期比増減率: %)	
				上期	下期
全産業	(▲8.7)	▲14.0	▲9.8		▲17.1
石油・石炭・電気・ガス・水道を除く全産業	(3.6)	▲26.8	▲24.4		▲28.6
製造業	(▲17.0)	▲28.8	▲12.9		▲39.7
非製造業	(▲8.4)	▲11.5	▲9.3		▲13.2
情報通信業	(▲45.4)	▲50.0	▲68.8		▲16.9
運輸業、郵便業	(182.8)	114.8	612.2		9.2
卸売業、小売業	(▲14.1)	▲12.2	▲42.9		14.5
サービス業	(▲71.3)	42.4	91.4		18.8

(参考) ソフトウェア投資額及び土地購入額を除く

		26年度		(前年同期比増減率: %)	
				上期	下期
全産業	(▲16.9)	▲16.7	▲12.7		▲19.6
製造業	(▲16.7)	▲28.6	▲11.8		▲40.1
非製造業	(▲16.9)	▲14.7	▲12.9		▲16.0

(注) () 書きは前回調査 (26年1~3月期) 結果

農林水産部では、消費者の皆様とのコミュニケーションを深めるために、庁舎1階に「消費者の部屋」を設置し、農林水産行政、農業生産、食生活等に関する情報をパネル展示やパンフレット提供などにより行っております。

この常設の展示に加え、農林水産業の各種イベントや月間等に合わせた特別展示を毎年度実施しており、6月は食育月間に合わせて食育パネル展を開催しました。

パネル展では、日頃の食生活を見直し、改善につなげるため、バランスの取れた1日の献立例などの展示のほか、BMIスケールによる肥満度測定コーナーなどを設けました。



6月2日(月)～6日(金)に開催された「食育パネル展」



フードサンプルによる献立例や食事バランスガイド(模型)などの展示



BMI測定の様子

平成26年度は7月以降も下記スケジュールで、農林水産物・食品を始め様々な展示を予定しています。パネル展示のほか、ビデオ上映、食品の試食など農林水産業の「いま」を知っていただけるコーナーも準備しておりますので、どうぞお気軽にお越しください。

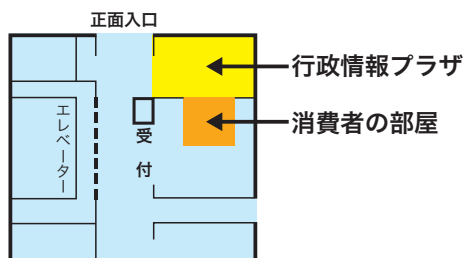
期 間	特別展示名
7月22日(火)～ 7月25日(金)	沖縄における農業農村整備事業
10月20日(月)～10月24日(金)	統計データから見た沖縄の農林水産業
10月27日(月)～10月31日(金)	沖縄県内の薬用作物
11月 5日(水)～11月 7日(金)	沖縄県産きのこパネル展
11月25日(火)～11月28日(金)	沖縄地域6次産業化推進パネル展
12月 8日(月)～12月12日(金)	都市農村交流事例紹介パネル展
1月19日(月)～ 1月23日(金)	沖縄黒糖のパネル展
1月26日(月)～ 1月30日(金)	沖縄ブランド豚のパネル展
2月 2日(月)～ 2月 6日(金)	沖縄農林水産物の輸出の状況と取組
2月23日(月)～ 2月27日(金)	食品表示と食品トレーサビリティ制度パネル展



*特別展示スケジュールは、都合により変更になる場合があります。

特別展示は、「消費者の部屋」及び隣接する「行政情報プラザ」を利用したスペースで開催してまいります。

毎回、沖縄総合事務局ホームページでご案内してまいります。



那覇第2地方合同庁舎 2号館

社会資本整備事業の見える化

沖縄総合事務局
内閣府

◆事業計画

・概要、H26年度事業内容、位置図、パンチ図、写真等を記載

◆工程表

- H25年度の成果等
 - ・H25年度における事業等の進捗等の成果を記載（△△供用済、▲▲促進、□□実施、など）
- H26年度の成果目標等
 - ・H26年度における事業等の進捗等の目標を記載（△△供用予定、▽▽新規事業化、▲▲促進、□□実施、など）
- 事業等の見通し
 - ・供用目標等をバーチャートで表示（H25年度～H31年度以降）（凡例は下図参照）
- 備考
 - ・これまでの成果、全体の目標、その他の参考情報を記載

例

工程表の凡例

項目	事業名	H25年度の成果等	H26年度の成果目標等	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31以降	備考
那覇空港自動車道	一般国道506号豊見城東道路 L=6.2km	・豊見城IC～南風原南IC L=3.5km(4/4) 平成26年3月31日 開通済 ・(東風平地区)舗装工、設備工、付帯工 ・豊見城高架橋上部工	・豊見城・名嘉地IC～豊見城IC L=2.7km(4/4) 平成26年度 開通予定 ・(上田地区)舗装工、付帯工								・豊見城IC～南風原南IC L=3.5km(2/4) H15.4.20開通済 ・豊見城・名嘉地IC～豊見城IC L=2.7km(2/4) H20.3.22開通済 ・豊見城IC～南風原南IC L=3.5km(4/4) H26.3.31開通済
交通安全事業	一般国道329号奥間川交差点改良	・設計	・設計 ・用地買収								早期完成は目指すものの、完成に向けた円滑な事業実施環境が整った段階で確定予定。
一般二次改築	一般国道58号豊見バイパス L=5.1km(恩納村瀬良垣～恩納村南恩納)	・環境調査 ・用地買収(南恩納地区) ・1号橋上部工 ・8号橋上部工 ・恩納地区改良工	・環境調査 ・1号橋上部工 ・恩納地区改良工								恩納村瀬良垣～恩納村南恩納 L=5.1km(2/4) H23.4.29開通済 平成27年度 交差点改良開通予定
維持修繕事業	耐震補強	補強対象0橋	補強対象2橋								H18仕様書対応対象橋梁94橋・対策済み14橋(25年度末)

○事業等の見通しは、標準的な工程を想定した場合の目安。今後の予算状況や施工上の条件変化等により変更の可能性がある。
(例) 用地取得時における土地所有者調査・関係者調整の長期化、地元調整や環境配慮等のための工程調整、関係機関・隣接事業との調整、など

例

那覇空港自動車道 一般国道506号 豊見城東道路

1. 概要

沖縄自動車道、南風原道路と一体となって本島北部及び中南部から那覇空港間の定時性、高速性を確保するとともに都市部の交通混雑の緩和と沿道環境の改善を図ることを目的とする道路。

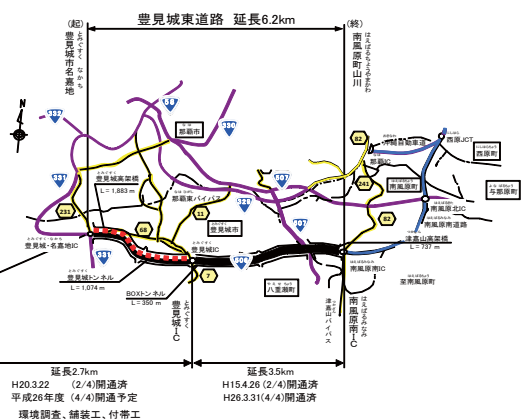
- 事業区間：沖縄県豊見城市名嘉地～島尻郡南風原町山川
- 延長：6.2km
- H26当初：6.0億円



2. 平成26年度事業内容

- 豊見城・名嘉地IC～豊見城IC（延長2.7km）
 - ・平成19年度暫定2車線開通済
 - ・環境調査、舗装工、付帯工
 - ・平成26年度完成4車線開通予定
- 豊見城IC～南風原南IC（延長3.5km）
 - ・平成26年3月31日完成4車線開通済

(全体用地進捗率：約99%)
[平成26年3月末現在]



沖縄の振興・発展のためには、沖縄の優位性を活かした自立型経済を構築していくことが重要であり、これを支える社会資本整備を着実に進めていく必要があります。
今年度は、那覇空港滑走路増設事業を本格的に進め、那覇北道路・若狭港町線を新規事業に着手するなど道路、港湾、空港、

公園事業などの様々な事業を展開していきます。さて、沖縄の振興・発展の戦略や道筋等を立てるには、下部構造の社会資本整備と合わせて上部構造の社会・経済活動等が上手に連携していく必要があります。
例えば、沖縄県が目標に掲げている入域観光客一千万人の時代を迎えるにあたり観

光施設などの誘致において空港、港湾、道路などの社会資本整備と連携することが必要不可欠となることから、事業展開等の情報共有を十分に行うことが重要であります。また、社会資本整備は、社会の基盤づくりとして常に広く県民に知っていただけるよう努めなければなりません。
このため、「社会資本整備事業の見える化」として社会資本整備の進捗状況を分かりやすく示す、見通しを示す、情報を共有することができるよう道路、ダム、港湾、空港、

公園、営繕、防災、その他の8分野について事業内容を示した事業計画および目標、進捗状況、見通し等を記載した工程表を公表しました。
今後は、年度毎に達成状況を確認し目標を設定するとともに、進捗管理を徹底し、工期の短縮に努めてまいります。
詳細の情報については、沖縄総合事務局開発建設部のホームページ(<http://www.dc.ogb.go.jp/kaiken/11229/index.html>)にて確認下さい。

仕事の窓

3

開発建設部

「社会整備事業の見える化」(事業計画・工程表)について

「社会資本整備事業の見える化」として社会資本整備の進捗状況を分かりやすく示す、見通しを示す、情報を共有することができるよう事業内容を示した事業計画および目標、進捗状況、見通し等を記載した工程表を公表しました。

伊平屋く運天港航路に 「フェリーいへやⅢ」が就航

沖縄本島周辺の島々の中で最北端に位置する島・伊平屋島は、ウンジャミ等の沖縄古くからの伝統行事が数多く残されており、沖縄県の天然記念物として知られる念頭平松などを始め、歴

史、祭り、自然豊かな伊平屋村の魅力をいかした観光や、伊平屋ムーンライトマラソンなどのスポーツイベントが行われています。

その伊平屋島へは今帰仁村の運天港からフェリーが1日2往復

運航していますが、伊平屋島までの航路は波が荒いことで知られ、北からの風が強くなる冬季には度々欠航することから、伊平屋村民はフェリーの安定運航の確保に悩まされていました。

そのような伊平屋島と運天港を結ぶ航路に、平成7年から18年以上の長きにわたって就航していた「フェリーいへや」（総トン数498トン・旅客定員300名）に代わり、平成26年4月1日より新船「フェリーいへやⅢ」が就航しました。

新船「フェリーいへやⅢ」は全長76m、総トン数

756トン、最大旅客定員450名と旧船より一回り大型化され、横揺れを軽減するフィンスタブライザーの装備により、波に強く安定性に優れることから快適かつ安心、安全な船旅が可能となっています。

また、多目的トイレなどのバリアフリー対応設備や船内エレベーターの設置により、高齢者や車いす利用者にも配慮した構造となっています。

大分県の造船所から伊平屋島の前泊港に入港した3月30日（日）には多くの伊平屋村の皆さんが港に駆けつけ、婦人会や青年団による舞踊やエイサーで賑やかに「フェリーいへやⅢ」の就航を祝いました。

また、4月12日（土）に行われました「フェリーいへやⅢ就航記念式典・祝賀会」では県内外から多くの関係者が集まり、伊平屋村の皆さんとともに新船就航を祝いました。

ちなみに船名に「Ⅲ」とあるのは、村の歴代の船で「フェリーいへや（伊平屋）」の名を冠する船がこれで三代目となることから、伊平屋村野甫小中学

校の生徒6名により「フェリーいへやⅢ」と命名されたことによります。

新船「フェリーいへやⅢ」の就航により海上輸送の一層の充実が図られ、利用者の利便性向上や安定的な物資運搬、伊平屋村のさらなる観光振興など、地域の活性化に大きく寄与するとともに多くの経済効果が期待されています。



フェリーいへやⅢ就航記念式典・祝賀会（写真提供：伊平屋村）



フェリーいへやⅢ（写真提供：伊平屋村）